

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－施策－

施策	①ちば文化の創造と千葉県民アイデンティティーの醸成			コードNo.	I-4-①						
施策主務課	環境生活部県民生活・文化課			総合計画掲載ページ	134						
施策の目標	<p>県民や関係団体、市町村などと連携して、「ちば文化」に親しめる環境をつくるとともに、「ちば文化」を継承し、新たな「ちば文化」を創造します。</p> <p>県民の千葉県に対する愛着や誇りを育みます。</p>										
年度	25年度	26年度	27年度	28年度							
予算額	2,028,161千円 (9月補正後)	2,376,575千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()							
決算額	1,961,246千円	2,321,237千円	千円	千円							
【施策の実施状況の判定】											
<p>進展が図られています・概ね進展が図られています・一部の進展にとどまっています</p> <table border="1"> <tr> <td>目標を達成した取組数</td> <td>目標を概ね達成した取組数</td> <td>目標に届かなかった取組数</td> </tr> <tr> <td>(0%)</td> <td>5 (100%)</td> <td>(0%)</td> </tr> </table>						目標を達成した取組数	目標を概ね達成した取組数	目標に届かなかった取組数	(0%)	5 (100%)	(0%)
目標を達成した取組数	目標を概ね達成した取組数	目標に届かなかった取組数									
(0%)	5 (100%)	(0%)									
【施策内の主な取組の実施状況】											
1	文化芸術を支えるための仕組みづくり			目標を概ね達成							
2	文化にふれ親しむ環境づくり			目標を概ね達成							
3	文化資源を活用した地域の活性化			目標を概ね達成							
4	伝統文化の保存・継承			目標を概ね達成							
5	千葉アイデンティティーの醸成			目標を概ね達成							
【政策の実施状況・上位政策への貢献】											
<ul style="list-style-type: none"> 26年度の「芸術や文化に親しむ機会に満足している県民の割合」は22.4%、「現在居住している地域に住み続けたい理由として、住み慣れて愛着があると回答した県民の割合」は42.9%と、ほぼ横ばいの状態で推移しています。 「千葉フィールドミュージアム事業」では、山・川・海の現場（フィールド）の自然や文化そのものを「資料」ととらえた博物館活動を、県民との協働により81回実施しました。 学校・社会教育施設等において、出土文化財を活用した展示・体験学習等を127回実施しました。 地域の文化資源をまちづくりや観光振興に活用するための取組として「東総地域文化資源活用啓発事業」を実施し、東総地域の伝統芸能や歴史的遺産のほか、食と遊びに関する文化資源を紹介しました。1,625名の参加があり、地域の文化資源の魅力を再確認していただきました。 伝統芸能の保存・継承については、延べ3,134名の小中高生が伝統文化に体験できる事業を実施しました。また、美術館・博物館における伝統文化に関する年間40事業では、1,888名の参加者がありました。 千葉県民としての意識を醸成し、県民が千葉県に対する愛着や誇りを一層感じられるよう、県民の日制定30周年を記念して、6月14日に千葉県文化会館において「県民の日ちば笑顔まつり」を開 											

催したほか、県内 11 地域において県民の日地域行事を実施するとともに、県内各地で賛同行事が実施されました。

- ・これらの事業を通じて、ちば文化の創造と県民の千葉県に対する愛着や誇りの育みの実現に貢献しました。

【今後の課題と取組方針】

〔課題（指標の状況、政策への貢献度を向上させるために解決すべき課題）〕

- ・施策を構成する 5 つの主な取組のうち、いくつか達成できない指標がありました。さらに、「ちば文化」に親しめる環境づくりを推進していきます。
- ・伝統文化の保存・継承をしていくためには、これまで以上に若い人たちが伝統文化に触れる機会の拡充を図ることが必要です。
- ・次代を担う若い人たちが、文化芸術にふれ親しむ機会を更に増やし、より魅力的な文化活動を行えるような仕組みづくりを検討することが重要です。さらに、これまで以上に幅広い年代の多くの県民への周知が必要です。

〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕

- ・HP「ちば文化交流ボックス」を活用して、市町村や文化団体と連携してより分かりやすい本県の文化イベント情報や伝統文化等の文化資源情報の拡充に努めます。
- ・広報の時期、回数、媒体などを工夫し、芸術文化にふれ親しむ県民の裾野の拡大に努め、美術館・博物館の入場者数の増加を目指します。
- ・若い人が伝統文化にふれる機会を増やすため、「プロに学ぼう器楽クリニック（邦楽）」の見直しを図り、対象分野拡大の検討をします。
- ・美術館・博物館の利用やフィールドミュージアム事業への参加が一層進むよう、企画展、収蔵資料展等の展示事業や、参加型の教育普及事業の情報発信に努め、魅力ある企画を実施します。
- ・地域の歴史・文化への関心が醸成されるよう、出土文化財活用事業を拡大し、広報の充実に努めます。

【26 年度の評価結果の反映】

〔組織・人員〕

〔コスト（予算）〕計 2,441,250 千円（28 年度）

〔事務改善〕

- ・ちば文化振興計画が平成 27 年度で終了することから、平成 28 年度から平成 32 年度を計画年次とする第 2 次ちば文化振興計画を策定しました。（27 年度）
- ・「プロに学ぼう器楽クリニック（邦楽）」においては、「伝統芸能・洋楽～ふれあい体験事業（邦楽）」へ改称するとともに、2 分野（三曲、雅楽）から 3 分野（三曲、雅楽、能楽）に拡充して実施しました。引き続き 3 分野を実施することで、伝統文化の鑑賞・体験機会の拡充を図ります（27・28 年度）。
- ・効果的な助成を行うため「伝統芸能継承者育成事業」を廃止し、「若者の文化芸術活動育成支援事業」と統合して実施しました。伝統芸能の分野を含めた支援事業として、引き続き効果的な助成を行います。（27・28 年度）
- ・成田空港に近く、体験型の博物館として海外からの来館者が多い「房総のむら」に公衆無線 LAN スポットを設置するとともに館内案内表示の多言語対応を行います。（28 年度）
- ・博物館の企画展・特別展のテーマを本県の魅力が効果的に発信できるものや県民の関心の高い分

野に設定することを検討するとともに、地域の施設や産業と連携し、地域の活性化が図れるように努めます。(28年度)

- 「房総の郷土芸能」では、広報媒体や開催時期等を工夫して、引き続き多くの県民が来場するよう、効果的な広報に努めます。(27, 28年度)
- 県民が「県民の日」を通して、ふるさと千葉に愛着と誇りを持つことができるよう、県民の日中央行事として幕張メッセを会場に県民参加型のイベントを継続して実施しました。(27年度)

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－施策－

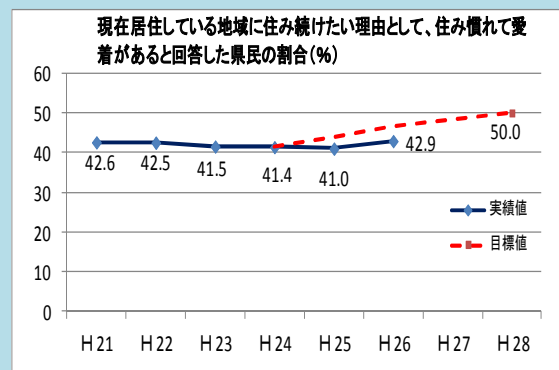
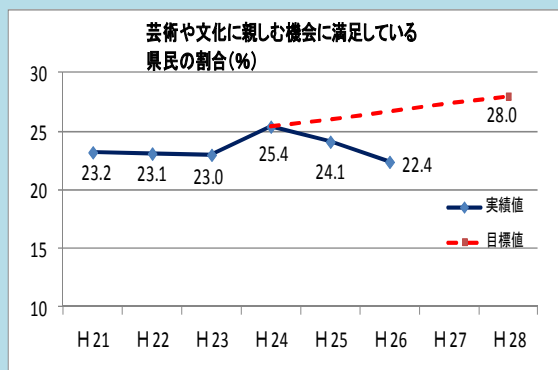
施策	ちば文化の創造と千葉県民アイデンティティの醸成	コードNo.	I-4-①
施策主務課	環境生活部県民生活・文化課	総合計画掲載ページ	134

【計画に掲げた政策の指標（この施策に関連する指標の抜粋）】

指標名： 芸術や文化に親しむ機会に満足している県民の割合 (単位：%)								目 標
21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	(28年度)
23.2	23.1	23.0	25.4	24.1	22.4			28

指標名： 現在居住している地域に住み続けたい理由として、住み慣れて愛着があると回答した県民の割合 (単位：%)								目 標
21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	(28年度)
42.6	42.5	41.5	41.4	41.0	42.9			50.0

* 太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。



千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	1 文化芸術活動を支えるための仕組みづくり			コードNo.	I-4-①-1
担当課	環境生活部県民生活・文化課、教育庁教育振興部生涯学習課、教育庁教育振興部文化財課			総合計画掲載ページ	135
年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額	75,546千円 (9月補正後)	69,377千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()	
決算額	60,116千円	65,169千円	千円	千円	
【指標による実施状況の判定】			目標を概ね達成		

【主な実施事項と成果】

- 1 県民主体の文化芸術活動を促進するため、県内全域で活動する文化芸術団体との共催による「千葉・県民芸術祭」を県内各地において28事業を実施しました。千葉・県民芸術祭の参加者数は対前年より減少していますが、これは県立美術館の一時閉館（27年1月まで）により開催できなかった事業があったほか、会場変更による規模の縮小によるものです。
なお、県民の文化芸術活動の新たな成果発表と、幅広い文化芸術団体の参加による連携と交流の場として24年度から実施している千葉・県民芸術祭「中央行事」は、多くの参加者・来場者を迎えました。
- 2 また、音楽演奏など文化活動を通してのボランティアを企画している者と、ボランティア活動の受け入れを希望する者とを結びつける手伝いなど、文化芸術活動を支える「文化活動ボランティアネットワーク事業」については、ボランティアの活動状況を調査・確認した結果、登録件数が53件となりました。
- 3 国指定文化財4件、県指定文化財6件について、文化財を良好な状態で保存するための修理や環境整備等を行い、貴重な文化財の保存を図りました。
- 4 参加型芸術文化活動の促進と生涯学習の推進を図るために、県民に成果を発表する機会及び、県民が芸術文化に触れる機会を提供するとともに、芸術文化活動を支える人材の育成を図りました。機会の提供については、6事業実施し、総観客数数は28,643人でした。また、人材の育成については、2事業実施し、活動日数（延べ参加者数）はそれぞれ15日（1,491人）、29日（1,686人）でした。

【今後の課題と取組方針】

〔課題（より効果・効率的に取組を実施するために解決すべき課題）〕

- ・「千葉・県民芸術祭」の参加者数が減少しているため、これを増加させるための工夫が必要です。
- ・芸術文化団体協議会に加盟している会員数が横ばい状態にあります。
- ・音楽ワークショップ、東葛飾文化祭 in 県民プラザでは、自主的な芸術文化活動の取り組みとなるように、自主運営に向けて実行委員会及び事務局運営の中でその方向性を探っています。
- ・吹奏楽だけでなく、音楽活動を行っているグループ団体の情報収集に努めます。

〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕

- ・パンフレットやホームページを利用し、「千葉・県民芸術祭」の全体概要だけでなく、個別事業の広報にも積極的に努めます。
- ・平成27年度以降もボランティアを依頼する者と受ける者をより効果的にマッチングできるように努めます。
- ・県民に文化芸術の興味・関心を高める手立てを講じていくことで芸術文化団体協議会の会員を増やしていきます。特に、次代を担う若い人たちの新規加入を進めることは急務であり、それを実現するため、より魅力的な文化活動を工夫していきます。
- ・事務局会及び実行委員会において継続的な検討課題とするとともに、自主運営へ向けての運営費面での検討を行います。それとともに、広報活動をはじめ、自主的な活動となるよう検討します。

- ・ 県民の文化芸術活動を広く支えるため、吹奏楽を主とした団体のみならず、合唱並びにバンド活動など吹奏楽以外の音楽活動をしている団体にも発表の機会を設けます。

【26 年度の評価結果の反映】

〔組織・人員〕

〔コスト（予算）〕 計 69,102 千円（28 年度）

音楽ワークショップについては、自主運営に向けて運営費を見直しました。（28 年度）

〔事務改善〕

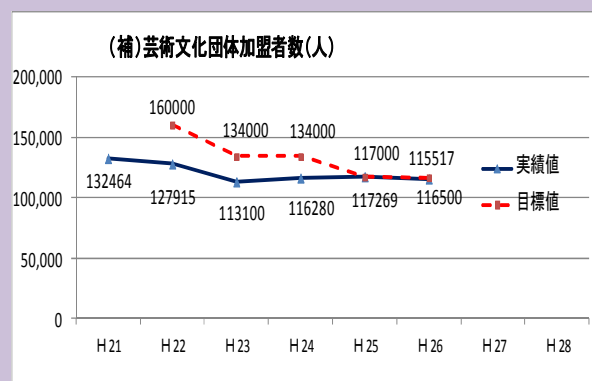
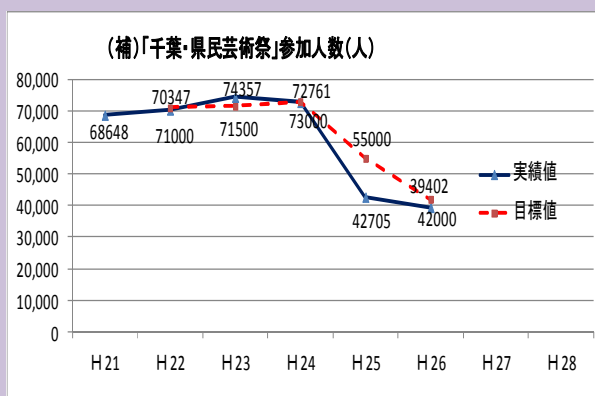
・ 「千葉・県民芸術祭」については参加者数を増加させるため、県民だより 9 月号において芸術祭参加事業を紹介し参加者を募集するとともに、県民だより発行と時期を合わせて千葉そごう地階ギャラリーにおいて各事業のポスターや写真の掲出及びチラシの設置を行い、芸術祭に参加する個別の事業にも焦点を当てた広報活動を展開しました。（27 年度）

・ 東葛飾文化祭の年間 12 回の運営委員会・実行委員会において、積極的な広報活動について検討しました。

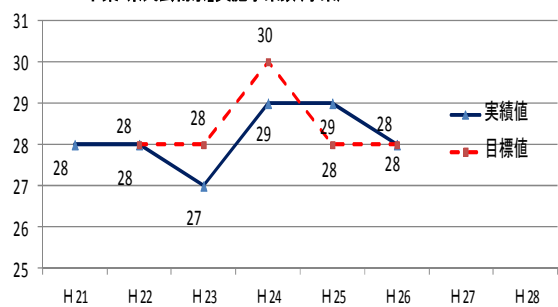
また、県民の文化芸術活動を広く支えるため、子どもミュージカルや和太鼓の団体、特別支援学校の生徒に発表の機会を提供しました。（27 年度）

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

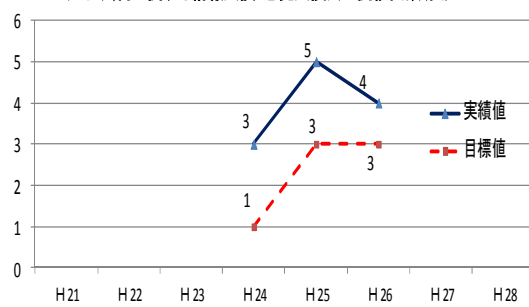
主な取組	1 文化芸術活動を支えるための仕組みづくり		コードNo.	I-4-①-1				
担当課	環境生活部県民生活・文化課、教育庁教育振興部生涯学習課、教育庁教育振興部文化財課		総合計画掲載ページ	135				
【指標による取組の判定】								
指標の数：5 [うち目標を達成した指標の数：3 (60 %)] 目標を達成 ・ 目標を概ね達成 ・ 目標に届かず								
【主な取組の指標】								
指標名： (補)「千葉・県民芸術祭」参加人数 (単位：人)								
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値	68,648	70,347	74,357	72,761	42,705	39,402		
目標値		71,000	71,500	73,000	55,000	42,000		
指標名： (補) 芸術文化団体加盟者数 (単位：人)								
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値	132,464	127,915	113,100	116,280	117,269	115,517		
目標値		16,000	134,000	134,000	117,000	116,500		
指標名： 「千葉・県民芸術祭」実施事業数 (単位：事業)								
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値	28	28	27	29	29	28		
目標値		28	28	30	28	28		
指標名： 文化芸術に関する情報交換・意見交換会の開催回数 (単位：回)								
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値				3	5	4		
目標値				1	3	3		
指標名： 文化活動ボランティア登録件数 (単位：件)								
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値	55	59	65	70	75	53		
目標値		65	65	70	72	40		



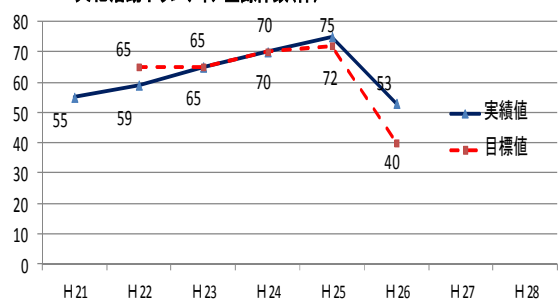
「千葉・県民芸術祭」実施事業数(事業)



文化芸術に関する情報交換・意見交換会の開催回数(回)



文化活動ボランティア登録件数(件)



千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	2 文化にふれ親しむ環境づくり		コードNo.	I-4-①-2
担当課	環境生活部県民生活・文化課、 教育庁教育振興部文化財課、教育庁教育振興 部生涯学習課		総合計画掲載ページ	136
年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額	1,573,293千円 (9月補正後)	1,830,079千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()
決算額	1,526,243千円	1,788,557千円	千円	千円
【指標による実施状況の判定】			目標を概ね達成	

【主な実施事項と成果】
<p>1 ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉を活用した「学校における芸術鑑賞事業」、「県民芸術劇場公演事業」の開催により質の高い文化に触れる機会を県民に提供しました。延べ92回の公演を開催することにより、県民、児童・生徒にオーケストラの生の演奏に触れる機会を提供することができました。また、児童・生徒に対する演奏指導（洋楽）として、器楽クリニックを実施し、県内の小・中学校4校で、吹奏楽部などを対象に、演奏技術や知識の向上を図るとともに、後継者の育成を図ることができました。</p> <p>2 県内のオーケストラ活動の普及を目的として設置した千葉県少年少女オーケストラの活動支援として、指導者の招へいなどに対して助成を実施しました。千葉県少年少女オーケストラは、延べ6回の公演を行い優れた演奏を県民に披露しました。</p> <p>3 若者の文化活動を継続的に支援し、活動のレベルアップを図るため、「若者の文化芸術活動育成支援事業」に名称を変更し、継続的な活動の見込みがあり、新たな取組みを実施する4件の若者の文化芸術活動に助成しました。</p> <p>4 土器などの出土文化財や写真パネル等を活用して、学校や公民館、観光イベント等への貸し出しや、専門職員が現地に赴いて行う出前授業である「土器ッと古代“宅配便”」事業を127件実施しました。</p> <p>5 フィールドミュージアムにおいては、山、川、海をフィールドとし、観察会、教室博物館、自然解説案内板等の屋外展示、おばあちゃんの畑プロジェクト、動植物の資料調査・収集、史跡巡り、石碑調査等の事業を実施し、2千人以上の参加者がありました。また、これらの内容をニュースレターやホームページで公開・普及を行なったほか、東京大学千葉演習林、安房生物愛好会等と連携し、出張展示や観察会を実施しました。</p> <p>6 県立美術館・博物館では、特別展、企画展、トピックス展等を開催し、40万7千人の見学者がありました。</p> <p>7 県民が身近な市町村立図書館等へ県立図書館や他の図書館の資料を取り寄せて利用できるよう、図書館等への資料搬送を実施した結果、目標値を上回る資料提供となり、年間貸出冊数は192千冊でした。</p> <p>8 県民の読書や調査研究活動の支援と市町村立図書館等への協力・援助のために、市町村立図書館では購入しづらい専門書や参考書を中心に13,180冊の図書を、県立図書館において購入しました。</p> <p>9 さわやかちば県民プラザにおいて、県民の生涯学習を推進していく上で、生涯学習活動及びその</p>

一つでもある芸術文化活動を行うために必要な施設の施設整備等を行いました。

今後の課題と取組方針

〔課題（より効果・効率的に取組を実施するために解決すべき課題）〕

- ・「学校における芸術鑑賞事業」「県民芸術劇場公演事業」などの実施数は近年横ばい状態です。
- ・「若者の文化芸術活動育成支援事業」は、応募団体の所在地に偏りがあります。
- ・「土器ッと古代“宅配便”」事業は、地域により利活用件数に偏りがみられ、更なる広報が必要です。
- ・美術館・博物館の入場者数は、昨年より増加したものの目標に達しませんでした。現代産業科学館のプラネタリウムや中央博物館の「もののけ祭り」など、多くの来館者を得た企画があったものの、美術館が耐震工事のため12月まで休館であったことが影響したものと考えられます。
- ・図書館等への資料搬送は、県内各市町村の図書館や希望する高等学校等に協力車を毎週巡回させるなどの方法で実施していますが、巡回ルートの関係から一部希望に対応できない高等学校があり、支援事業の拡大が課題となっています。
- ・限られた予算の範囲内で、いかにして県民に必要なタイトルを収集整備し、提供するかということが重要です。
- ・文化にふれ親しむ環境づくりを推進していくためにも施設の提供は重要であると考えます。

〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕

- ・広く県民に質の高い音楽鑑賞の機会を提供するため、文化ホール等に働きかけ県民芸術劇場公演の増加を図ります。また、市町村教育委員会や小・中学校に対し児童・生徒がオーケストラに直接触れることの意義や効果について説明する機会を増やすことにより市町村教育委員会等への理解を広げ、学校音楽鑑賞教室事業の拡充を図ります。
- ・「若者の文化芸術活動育成支援事業」は応募団体の所在に偏りがあることから、県ホームページ内の「ちば文化交流ボックス」を活用した情報発信や市町村関係施設への募集要項の配架等を通じて周知を図ります。
- ・「土器ッと古代“宅配便”」事業においては、新規需要を掘り起こすため、学校関係者の会議等へ出向くなど、広報・宣伝に努めます。
- ・県立美術館・博物館では、県民の関心の高い企画を実施するなど、魅力ある事業を展開して多くの入場者を得られるよう目指します。
- ・高等学校への資料搬送については、協力車による巡回のほか、宅配サービスを併用した支援事業の拡大を図ります。
- ・県立3図書館で、同じタイトルを重複して購入することを避けて、より多くのタイトルを収集整備するよう、綿密に調整するとともに、資料の保存体制の見直しを検討します。
- ・生涯学習活動及び芸術文化活動を推進していくための施設整備を行っていきます。

【26年度の評価結果の反映】

〔組織・人員〕

〔コスト（予算）〕計1,876,006千円（28年度）

- ・宅配サービスを含めた図書館等への資料運搬を推進するための経費（16,903千円）及び県立図書館の図書購入費（49,848千円）を措置しました。（28年度）
- ・成田空港に近く、体験型の博物館として海外からの来館者が多い「房総のむら」に、公衆無線LANスポットの設置及び館内案内表示の多言語対応を行います。（28年度）

〔事務改善〕

- ・「若者の文化芸術活動育成支援事業」においては、県ホームページ内の「ちば文化交流ボックス」

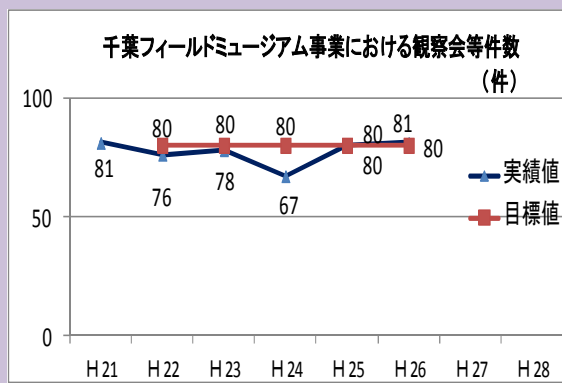
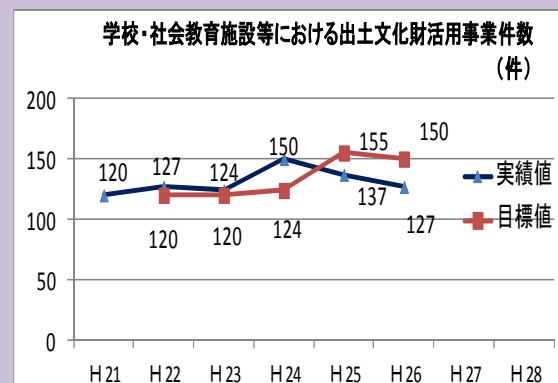
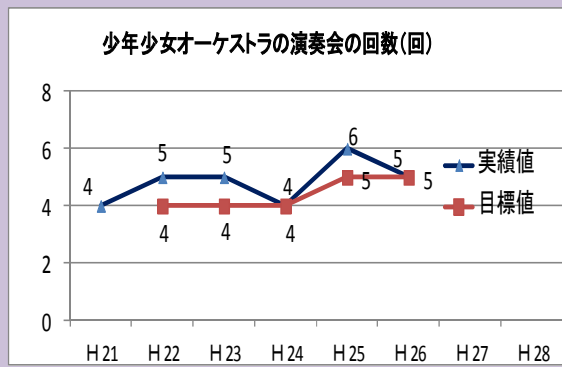
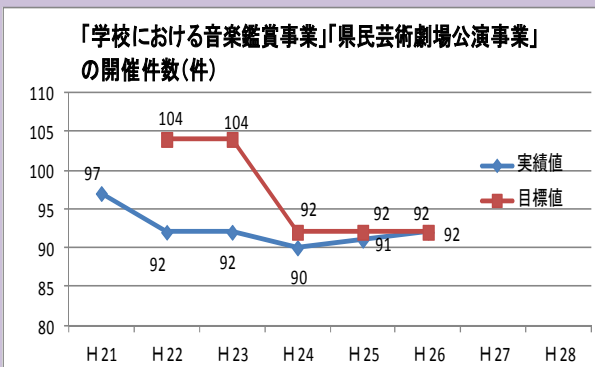
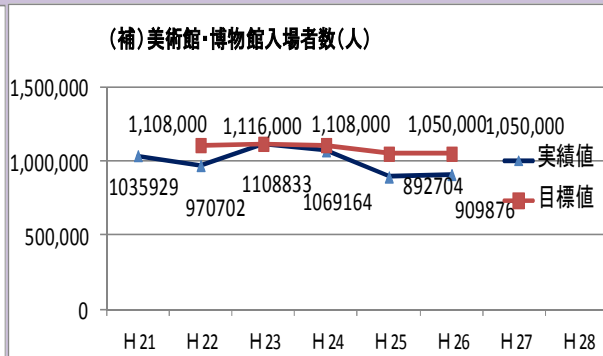
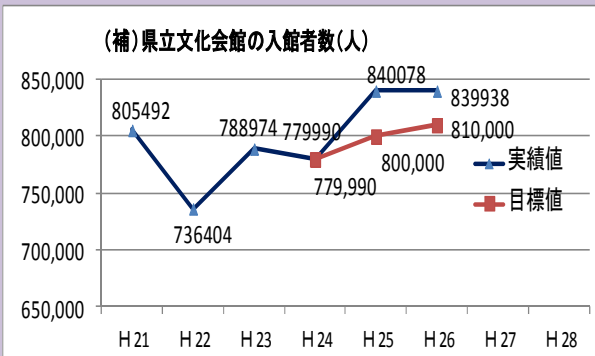
様式 2 - 2

を活用した情報発信や市町村関係施設への募集要項の配架等を行った結果、応募数・採択数の増加に繋がりました。引き続き当事業の周知に努めます。(27・28年度)

- ・宅配サービスを併用した資料搬送を実施し、高等学校への支援を拡大しました。(27年度)
- ・博物館における企画展・特別展等の展覧会を、より多くの県民の関心が高い分野や本県の魅力発信が効果的に図れるテーマとするよう検討するとともに、地域の施設や産業と連携し、地域の活性化が図れるよう努めます。(27,28年度)

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	2 文化にふれ親しむ環境づくり					コードNo.	I-4-①-2		
担当課	環境生活部県民生活・文化課、 教育庁教育振興部文化財課、教育庁教育振興部 生涯学習課					総合計画掲載ページ	136		
【指標による取組の判定】									
指標の数：6 [うち目標を達成した指標の数：4 (67%)] 目標を達成 ・ 目標を概ね達成 ・ 目標に届かず									
【主な取組の指標】									
指標名：(補) 県立文化会館の入場者数 (単位：人)									
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
実績値	805,492	736,404	788,974	779,990	840,078	839,938			
目標値					800,000	810,000			
指標名：(補) 美術館・博物館入場者数 (単位：人)									
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
実績値	1,035,929	970,702	1,108,833	1,069,164	892,704	909,876			
目標値		1,108,000	1,116,000	1,108,000	1,050,000	1,050,000			
指標名：「学校における音楽鑑賞事業」「県民芸術劇場公演事業」の開催件数 (単位：件)									
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
実績値	97	92	92	92	91	92			
目標値		104	104	92	92	92			
指標名：少年少女オーケストラの演奏会の開催件数 (単位：回)									
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
実績値	4	5	5	5	6	5			
目標値		4	4	4	5	5			
指標名：学校・社会教育施設等における出土文化財活用事業件数 (単位：件)									
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
実績値	120	127	124	150	137	127			
目標値		120	120	124	155	150			
指標名：千葉フィールドミュージアム事業における観察会等件数 (単位：件)									
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
実績値	81	76	78	67	80	81			
目標値		80	80	80	80	80			



千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	3 文化資源を活用した地域の活性化			コードNo.	I-4-①-3
担当課	環境生活部県民生活・文化課 教育庁教育振興部文化財課			総合計画掲載ページ	136
年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額	6,760千円 (9月補正後)	6,636千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()	
決算額	6,507千円	5,495千円	千円	千円	
【指標による実施状況の判定】			目標を概ね達成		

【主な実施事項と成果】
<p>1 地域の文化資源をまちづくりや観光振興に活用するための取組みとして、10月に東総文化会館において「東総地域文化資源活用啓発事業」を開催し、東総地域の伝統芸能や歴史的遺産のほか、食と遊びに関する文化資源を紹介しました。1,625名の参加があり、地域の文化資源の魅力を再確認していただくことができました。</p> <p>2 文化財を活用、普及させるため、「文化財探検隊」事業を、我孫子市（6月）、香取市（10月）、鴨川市（11月）で実施しましたが、うち2回が雨天、1回が荒天により中止となったため、参加者は、計48名に留まりました。しかし、応募者は定員の2倍を超え、リピーターが増えていることから、地域の文化財に対する関心を持つ人が増え、文化財保護の意識が広がっています。</p> <p>3 発掘調査現地説明会を2回実施し、計80名の小学校児童の参加がありました。</p>
【今後の課題と取組方針】
<p>〔課題（より効果・効率的に取組を実施するために解決すべき課題）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域振興のためにも地域の身近な文化資源への県民の関心を高める必要があります。 ・「文化財探検隊」事業は、徒歩またはバスでの移動となり、1回あたりの定員に限られており、応募者全員が参加することができない状況にあります。 ・発掘調査現地説明会は、発掘調査した遺跡の周辺環境を整えるとともに、遺物・遺構の出土状況や天候に左右されることから、事前の状況把握が必要となります。 <p>〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化資源活用啓発事業を県内各地で実施し、多くの方々に地域に残るさまざまな文化資源を広く紹介してまいります。 ・「文化財探検隊」事業については、県立博物館等が実施する事業と連携するなど、より多くの県民の方が参加できるよう検討していきます。 ・発掘調査現地説明会の実施は、複数の遺跡を候補として選定し、調査の進捗状況等を把握しながら、実施時期を検討してまいります。
【26年度の評価結果の反映】
<p>〔組織・人員〕</p> <p>〔コスト（予算）〕 計9,255千円（28年度）</p> <p>〔事務改善〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の身近な文化資源に関心を持ってもらうために、平成27年度は南総文化ホールにおいて伝統芸能を紹介する事業に併せ、安房地域の文化資源を紹介する事業を実施しました。（27年度：233千円） ・平成23年度から実施してきた「文化資源活用啓発事業」を通して、県内文化施設等が文化資源を地域のまちづくりなどに活用する取組みを自主的に実施するようになり、本事業の目的が達成されたので27年度をもって終了することとしました。

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	3文化資源を活用した地域の活性化	コードNo.	I-4-①-3
担当課	環境生活部県民生活・文化課 教育庁教育振興部文化財課	総合計画掲載ページ	136

【指標による取組の判定】

指標の数：3 [うち目標を達成した指標の数：2 (67%)]

目標を達成 ・ 目標を概ね達成 ・ 目標に届かず

【主な取組の指標】

指標名： (補)「ちばの文化資源情報」の提供件数 (単位：件)

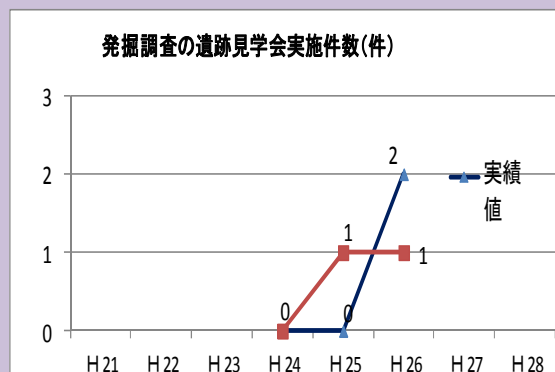
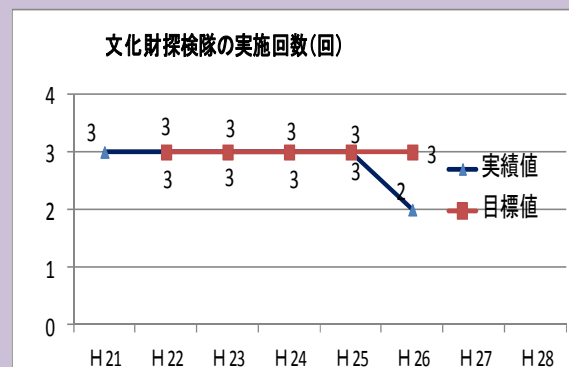
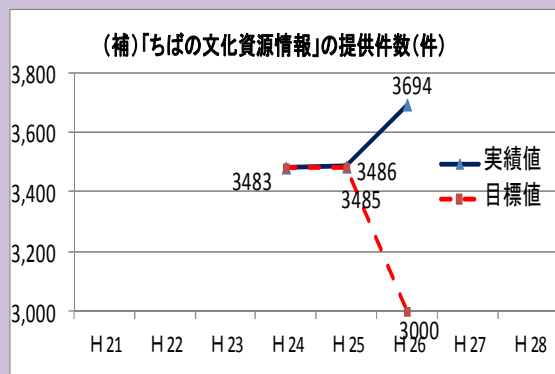
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値				3,483	3,486	3,694		
目標値					3,485	3,000		

指標名： 文化財探検隊の実施回数 (単位：回)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年	27年	28年
実績値	3	3	3	3	3	2		
目標値		3	3	3	3	3		

指標名： 発掘調査の遺跡見学会実施件数 (単位：回)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値					0	2		
目標値					1	1		



千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	4 伝統文化の保存・継承		コードNo.	I-4-①-4
担当課	環境生活部県民生活・文化課、 教育庁教育振興部文化財課		総合計画掲載ページ	137
年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額	349,562千円 (9月補正後)	424,483千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()
決算額	347,489千円	422,967千円	千円	千円
【指標による実施状況の判定】		目標を概ね達成		

【主な実施事項と成果】
<p>1 小・中・高校生を対象に伝統芸能への関心を促し、将来に向けての保存・継承を図るため、参加体験と芸術鑑賞とを併せて行う「伝統芸能継承者育成事業」では、4事業で118名の小中高生が伝統文化を体験しました。参加者数は昨年と比較し減りましたが、これは、採択団体の都合による取下げ等で実施事業が減少したためです。</p> <p>2 また、邦楽についての理解を深めるとともに、伝統的音楽文化の普及・振興、並びに邦楽における後継者の育成を図るため、児童・生徒を対象に、邦楽の鑑賞と楽器の指導を行う「プロに学ぼう器楽クリニック（邦楽）」を実施し、14校、3,016名の小・中学生が参加しました。</p> <p>3 美術館・博物館では、伝統文化への関心を促し継承するために、ものに触れたり、実際に製作するなどの体験事業を、年間を通じて40事業企画・実施し、1,888名の参加者を得ました。体験事業への関心は高いため、引き続き内容を工夫しながら実施していきます。</p> <p>4 12月に「房総の郷土芸能2014」を鴨川市において開催し、安房地区の7つの保存団体による民俗芸能を上演しました。939名の来場者があり、地域の民俗芸能についての理解を深める機会の提供とともに、参加団体における文化財の保存継承の意欲向上に貢献したと考えられます。</p> <p>5 国指定文化財4件、県指定文化財6件について、文化財を良好な状態で保存するための修理や環境整備などを行う、貴重な文化財の保存を図りました。</p>
【今後の課題と取組方針】
<p>〔課題（より効果・効率的に取組を実施するために解決すべき課題）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化の保存・継承をしていくためには、若い人たちが伝統文化に触れる機会を確保し、より多くの小・中・高生が参加できるよう、これまで以上に周知及び触れる機会の拡充を図ることが必要です。 ・体験型事業を実施・運営する際に、対話や交流を通して伝統文化への関心を高めることが必要です。 <p>〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い人たちが伝統文化に触れる機会を拡大するため、市町村に協力を呼びかけ、県ホームページ「ちば文化交流ボックス」の掲載情報を充実させました。 ・「プロに学ぼう器楽クリニック（邦楽）」では、伝統文化の鑑賞・体験機会の拡充を図るため、対象とする邦楽の分野の拡大等、見直しを図ります。 ・体験型事業を実施・運営する際には、ボランティア等との県民連携に努めます。 ・引き続き、「房総の郷土芸能」として民俗芸能の公開普及事業を行うとともに、広報の時期、回数、媒体などを工夫し、県民により広く周知することを目指します。
【26年度の評価結果の反映】
<p>〔組織・人員〕</p> <p>〔コスト（予算）〕計 426,887千円（28年度）</p> <p>〔事務改善〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「プロに学ぼう器楽クリニック（邦楽）」においては、「伝統芸能・洋楽～ふれあい体験事業（邦楽）」へ改称するとともに、2分野（三曲、雅楽）から3分野（三曲、雅楽、能楽）に拡充して実施しました。引き続き3分野を実施することで、伝統文化の鑑賞・体験機会の拡充を図ります（27・28年度）。

様式 2 - 2

- ・効果的な助成を行うため「伝統芸能継承者育成事業」を廃止し、「若者の文化芸術活動育成支援事業」と統合して実施しました。伝統芸能の分野を含めた支援事業として、引き続き効果的な助成を行います。(27・28年度)
- ・「房総の郷土芸能」では、媒体及び開催時期などを工夫して、引き続き多くの県民が来場されるよう効果的な広報に努めます。(27, 28年度)

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	4 伝統文化の保存・継承	コードNo.	I-4-①-4
担当課	環境生活部県民生活・文化課、 教育庁教育振興部文化財課	総合計画掲載ページ	137

【指標による取組の判定】

指標の数：4 [うち目標を達成した指標の数：2 (50%)]

目標を達成 ・ 目標を概ね達成 ・ 目標に届かず

【主な取組の指標】

指標名：(補) 伝統芸能継承者育成事業の参加者数 (単位：人)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値		497	1,010	280	273	118		
目標値		80	240	300	300	180		

指標名：伝統芸能継承者育成事業の実施件数 (単位：件)

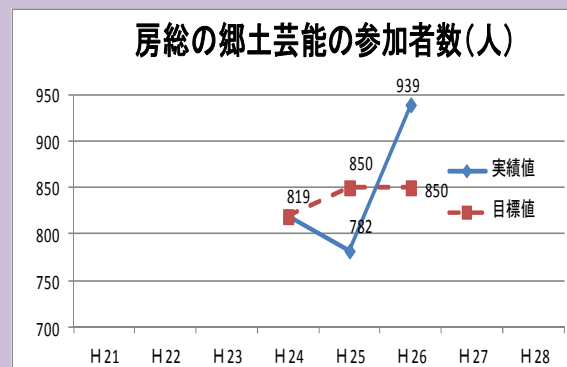
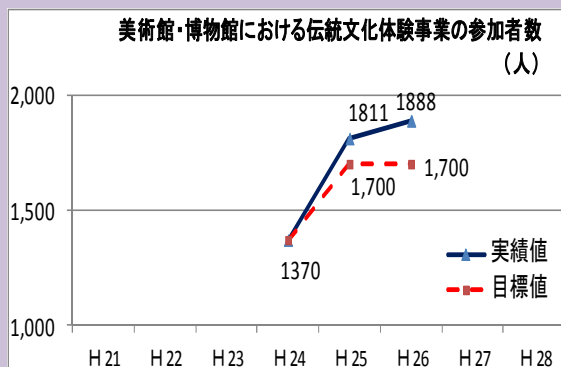
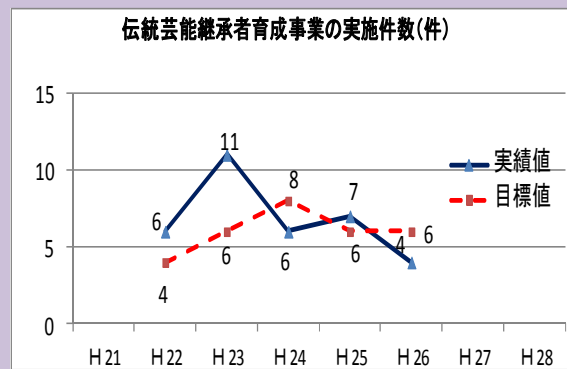
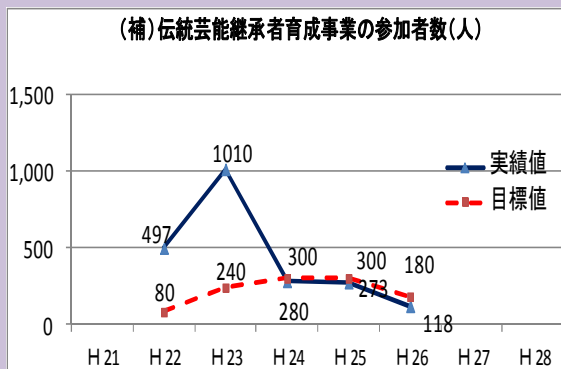
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値		6	11	6	7	4		
目標値		4	6	8	6	6		

指標名：美術館・博物館における伝統文化体験事業の参加者数 (単位：人)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値				1,370	1,811	1,888		
目標値					1,700	1,700		

指標名：房総の郷土芸能の参加者数 (単位：人)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値				819	782	939		
目標値					850	850		



千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	5 千葉アイデンティティの醸成			コードNo.	I - 4 - ① - 5
担当課	環境生活部県民生活・文化課			総合計画掲載ページ	137
年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額	23,000 千円 (9月補正後)	46,000 千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()	
決算額	20,891 千円	39,049 千円	千円	千円	
【指標による実施状況の判定】			目標を概ね達成		

【主な実施事項と成果】

- 1 県民の日制定30周年を記念して、より多くの県民が千葉の魅力を見直し、ふるさと千葉への愛着を深めることができるよう、県民参加型のイベント「県民の日ちば笑顔まつり」を開催しました。
- 2 県民に千葉の魅力を認識・再発見してもらい、地域の活性化を図るため、地域振興事務所のある10地域及び千葉・市原地域の合計11地域で県民の日実行委員会を組織し、地域の特色を活かした事業を企画・運営するための補助を行いました。
- 3 県民の千葉を愛する心をはぐくむため、6月15日の県民の日を中心に、県、市町村及び各種団体等において、337件の賛同行事が実施され、パンフレットやホームページ、県民だよりで施設の無料開放や記念イベントなどの広報を行いました。

【今後の課題と取組方針】

〔課題（より効果・効率的に取組を実施するために解決すべき課題）〕

- ・平成27年度は、イベント等を開催するなど、「県民の日」を広く周知するとともに、ふるさと千葉への愛着を持つことができる取組みを実施することが必要です。
- ・千葉アイデンティティ（県民がふるさと千葉に対する愛着や誇りを持つこと）の醸成には、県内各地の特色を生かした行事の実施など、千葉県の魅力を広く内外に発信するような事業を、中長期的視点で継続していくことが必要です。
- ・県民の日事業では、企業や公共施設などによる賛同行事が、震災前の実施件数を上回り順調に増加していますが、これを継続するため、更に、企業等へ参加の呼びかけを行っていくことが必要です。

〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕

- ・平成26年度に実施した県民参加・体験型のイベントを継続して実施することで、県民のふるさと千葉への愛着を深めます。
- ・多彩で個性あふれる千葉の文化や歴史、自然、産業等に触れ、体感することのできる行事を県の各地域において、市町村や各種団体等と連携して実施します。
- ・県民の日については、趣旨、地域の行事、賛同行事等を紹介するパンフレットを作成し、広くPRするなど、千葉県の魅力を発信する機会の拡大に努めます。

【26年度の評価結果の反映】

〔組織・人員〕

〔コスト（予算）〕

計 60,000 千円（27・28年度当初予算）

〔事務改善〕

- ・ 県民が「県民の日」を通して、ふるさと千葉に愛着と誇りを持つことが出来るよう、県民の日中央行事として幕張メッセを会場に県民参加型のイベントを継続して実施しました。(27年度)
- ・ 県民の日中央行事で実施する内容についても、関係団体等と連携し幅広い世代が楽しむことが出来るよう、体験型プログラムの内容を増やして実施しました。(27年度)

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	5 千葉アイデンティティーの醸成	コードNo.	I - 4 - ① - 5					
担当課	環境生活部県民生活・文化課	総合計画掲載ページ	137					
【指標による取組の判定】								
指標の数：2 [うち目標を達成した指標の数： 1 (50%)] 目標を達成 ・ 目標を概ね達成 ・ 目標に届かず								
【主な取組の指標】								
指標名： 県民の日賛同行事の実施件数		(単位：件)						
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値		314	311	310	327	337		
目標値				345	325	345		
指標名： 県民の日地域行事の実施件数		(単位：件)						
	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年
実績値			11	11	11	11		
目標値			11	11	11	11		

県民の日賛同行事の実施件数(件)

年度	実績値	目標値
H22	314	
H23	311	
H24	310	345
H25	327	325
H26	337	345
H27	345	

県民の日地域行事の実施件数(件)

年度	実績値	目標値
H23	11	11
H24	11	11
H25	11	11
H26	11	11
H27	11	

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－施策－

施策	②「するスポーツ」、「みるスポーツ」、「ささえるスポーツ」の推進			コードNo.	I-4-②
施策主務課	教育庁教育振興部体育課			総合計画掲載ページ	138
施策の目標	全ての県民がスポーツに親しみ、スポーツの楽しさや感動を分かち合いながら、健康で活力ある生活を送り、互いに支え合う「スポーツ立県ちば」の実現を目指します。				
年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額	378,950千円 (9月補正後)	668,396千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()	
決算額	350,724千円	608,938千円	千円	千円	
【施策の実施状況の判定】					
進展が図られています・概ね進展が図られています・一部の進展にとどまっています					
目標を達成した取組数		目標を概ね達成した取組数	目標に届かなかった取組数		
1 (25%)		2 (50%)	1 (25%)		
【施策内の主な取組の実施状況】					
1	生涯スポーツの推進			目標を概ね達成	
2	人々に感動を与える競技力の向上			目標を概ね達成	
3	スポーツ環境の整備			目標を達成	
4	スポーツを活用した地域の活力づくり			目標に届かず	

【政策の実施状況・上位政策への貢献】	
<p>・計画の指標である【成人の週1回以上のスポーツ実施率】は、20～30歳代の数値が大きく減少したことにより44.0%となり、平成25年と比べ2.5ポイント下降しています。目標の60%達成に向けて、より一層の努力が必要です。</p> <p>・「生涯スポーツの推進」については、毎年10月を推進月間とし、のぼり旗の掲出や、リーフレットの配布、総合型地域スポーツクラブと近隣小学校が連携した親子体験講習会やスポーツ教室の開催などにより推進を図りました。また、郡部での「総合型地域スポーツクラブ」の設立はありませんでしたが設立に向けた準備が進められており、地域においても生涯スポーツの推進が図られています。</p> <p>・「人々に感動を与える競技力の向上」については、「長崎国体」に出場する選手の強化練習や県外遠征等の実施により、天皇杯10位と入賞を逃しましたが、皇后杯は6位入賞を果たしました。ちば国体終了後も関係団体との連携を図り、引き続き競技力の維持向上に努めてまいります。</p> <p>・また、「スポーツを活用した地域の活力づくり」については、ちばアクアラインマラソン2014を開催し、県民が参加できるスポーツの機会を提供するとともに、千葉の魅力を広く発信し、県民のスポーツへの機運を高め、「みる・するスポーツ」の推進に大きく寄与しました。</p> <p>・成人の週1回以上のスポーツ実施率等、目標を達成できなかった項目もありますが、競技用具の整備状況や総合型地域スポーツクラブの会員数等、目標を達成できた項目もあり、施策全体の行政活</p>	

動目標等の達成状況では概ね進展が図られていることから「豊かな心と身体を育てる社会づくり」に貢献したと考えられます。

【今後の課題と取組方針】

〔課題（指標の状況、政策への貢献度を向上させるために解決すべき課題）〕

- ・スポーツに関心はあるが、「時間がない」「体力的余裕がない」という 20 歳～50 歳代の世代に、体を動かすきっかけや運動の機会を与えられるような環境整備や情報提供の更なる充実が課題となります。
- ・親子体験イベントは、より多くの地域での開催と、その後の運動習慣につながるような手立てが今後の課題となります。
- ・千葉国体後も競技力が維持され、8 年連続の国体天皇杯入賞は逃しましたが、6 年連続で皇后杯入賞を果たし、連続入賞は 8 年となります。今後は、更に県民がスポーツに親しみ、健康で活力ある生活を送ることができるよう、競技力向上や地域と連携したスポーツ振興への取り組みを推進し、「スポーツ立県ちば」の実現に努めていく必要があります。
- ・地域におけるスポーツ推進事業を担当する指導者や、スポーツ相談等に当たる指導者を養成する千葉県社会体育公認指導員等養成講習会への受講者数が少ないが現状です。生涯スポーツの更なる推進のため、受講者数を増やすことが課題です。また、各種研修会において、千葉県広域スポーツセンター、各クラブ、市町村 3 者の連絡・調整を十分に行っていきます。

〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕

- ・運動実施率が低い子育て世代に運動の機会を与えるための親子体験講習会やスポーツ教室は、開催期間を長くして回数を増やしたり、より多くの地域で行ったりするとともに、広報活動にも力を入れていきます。
- ・「スポーツ立県ちば推進月間」の周知と体を動かす習慣の重要性を啓発するため、のぼり旗の掲出やちらしの配布などの工夫をしていきます。また、県内でより多くの地域でイベントを開催するとともに、運動習慣につながるような工夫をしていきます。
- ・競技力向上推進本部による長期的・計画的な事業の推進に加え、国体やその他の国際大会で活躍した選手等を、学校や地域のスポーツクラブに派遣し、スポーツの好循環を図っていきます。
- ・各種講習会の実施時期や広報の仕方（郵送、メール、Web サイトの活用）を検討し、より分かりやすい募集要項の作成に努めていきます。今後具体的な指導者活用法を検討し、資格を有効に活かせることを検討していきます。

【26 年度の評価結果の反映】

〔組織・人員〕

東京オリンピック・パラリンピックに本県選手を 1 人でも多く輩出するため、オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援班を設置します。（28 年度）

〔コスト（予算）〕

計 1,512,986 千円（28 年度）

全ての県民がスポーツに親しみ、スポーツの楽しさや感動を分かち合いながら、健康で活力ある生活を送り、互いに支え合う「スポーツ立県ちば」の実現に必要な経費を措置しました。（28 年度）

〔事務改善〕

- ・子育て世代を対象に行う親子体験イベントやスポーツ教室などの開催期間を広げ、参加しやすい環境づくりに努めました。（27 年度）

様式 2 - 1

- ・運動習慣の定着を目指して、幅広い世代の県民が、目的や興味・関心にあわせて様々なスポーツに触れることができる、総合型地域スポーツクラブの未設置市町村を訪問し、設立支援ミニ集会を開催しました。(27年度)
- ・「スポーツ立県ちば推進月間」の周知と、体を動かす習慣の重要性を啓発するために、のぼりを作成し各市町村に配布しました。(27年度)
- ・競技力向上を図るために、ジュニア強化事業において、競技団体をその特性から4つのグループに分け、その実情に応じた強化型別支援を実施しました。(27年度)

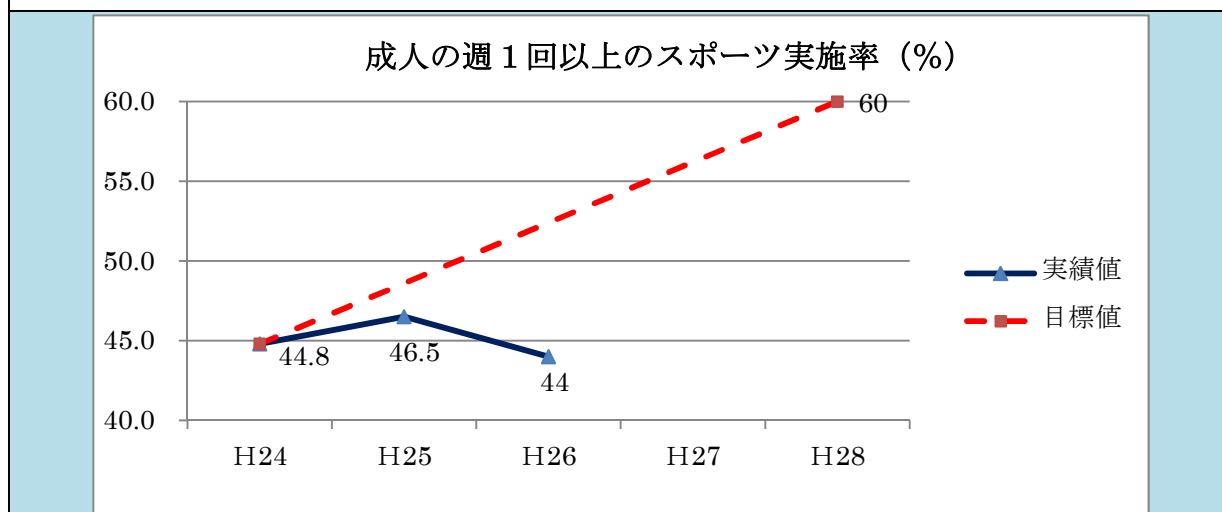
千葉県総合計画進行管理票（26年度）－施策－

施策	②「するスポーツ」、「みるスポーツ」、「ささえるスポーツ」の推進	コードNo.	I-4-②
施策主務課	教育庁教育振興部体育課	総合計画掲載ページ	138

【計画に掲げた政策の指標（この施策に関連する指標の抜粋）】

指標名：成人の週1回以上のスポーツ実施率							(単位：%)	目標
21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	(28年度)
			44.8	46.5	44.0			60.0

*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。



千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	1 生涯スポーツの推進			コードNo.	I-4-②-1
担当課	教育庁教育振興部体育課			総合計画掲載ページ	139
年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額	2,650千円 (9月補正後)	2,900千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()	
決算額	2,391千円	2,840千円	千円	千円	
【指標による実施状況の判定】			目標を概ね達成		

【主な実施事項と成果】

1 「千葉県体育・スポーツ振興条例」や第11次「千葉県体育・スポーツ推進計画」に基づき体育・スポーツ推進事業を実施しました。具体的な取組としては、毎年10月を「スポーツ立県ちば推進月間」とし、のぼり旗の掲出やリーフレットの配布、県内7か所で総合型地域スポーツクラブとその近隣小学校が連携して、親子を対象とした体験イベントやスポーツ教室を開催し、730名の方々の参加がありました。

また、県民体育大会のサブイベントでは、8競技会場で体験教室や実技講習会を開催し、561名の方々の参加がありました。すべての県民がスポーツに親しみ、スポーツの感動を分かち合いながら、健康で活力ある生活を送り、互いに支え合う「スポーツ立県ちば」¹⁾の確立が図られました。

2 県民のスポーツ・レクリエーションに対するニーズの多様化など、スポーツを取り巻く環境の変化は大きく変わり、大規模スポーツイベントの開催等を通じた「する・みる・ささえる」スポーツを推進しました。2回目となる「ちばアクアラインマラソン2014」では、県内・県外から多くの方に参加していただくとともに、地元の方々にも沿道応援や大会運営ボランティアとして参加していただきました。

【今後の課題と取組方針】

〔課題（より効果・効率的に取組を実施するために解決すべき課題）〕

- ・「成人の週1回以上のスポーツ実施率60%」の目標が達成できなかったのは、スポーツに関心はあるが、「忙しくて時間がない」「疲れていて体力的余裕がない」という理由で、20歳～50歳代のスポーツ実施率が低いためと思われるが、目標達成に向け環境整備や情報提供等の取組を展開していきます。

〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕

- ・県民のスポーツへの参加促進を図り、体育・スポーツ推進事業の拡充を図ります。具体的な取り組みとしては、「スポーツ立県ちば推進月間」の周知と体を動かす習慣の重要性を啓発するため、リーフレットの配布、のぼり旗の掲出に取組みます。また、県内でより多くの地域でイベントを開催するとともに、運動習慣につながるような工夫をしていきます。
- ・親子体験イベントは、開催期間を長くして回数を増やすとともに、多くの地域での開催と、その後の運動習慣につながるよう、広報活動にも力を入れていきます。

【26年度の評価結果の反映】

〔組織・人員〕

〔コスト（予算）〕

計 2,900 千円（28年度）

「スポーツ立県ちば」の実現を目指し、「する」「みる」「ささえる」スポーツを県民に一層推進する経費について措置しました。（28年度）

〔事務改善〕

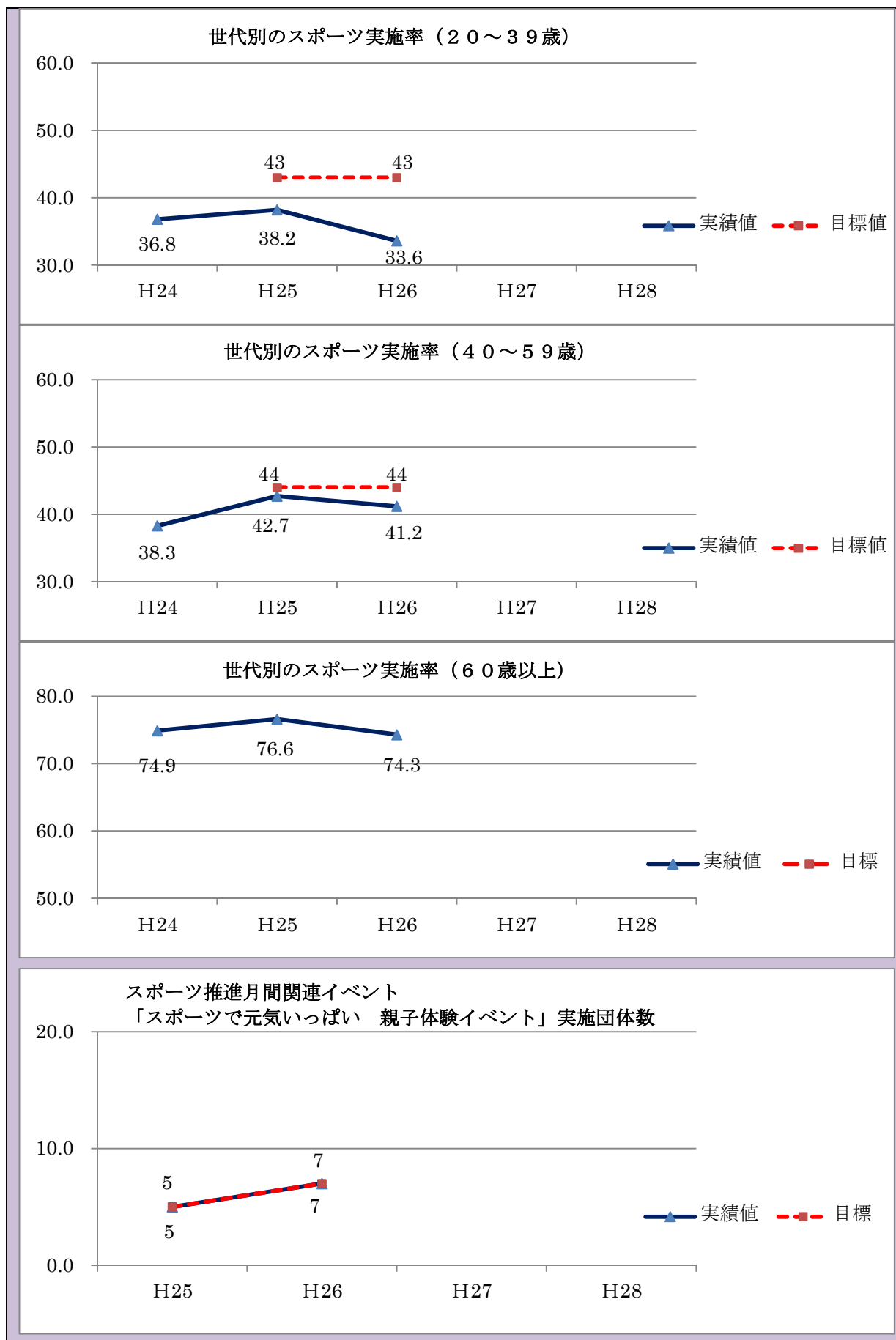
- ・「スポーツ立県ちば推進月間」の周知と体を動かす習慣の重要性を啓発するため、「県民だより」等を活用し、広報活動に努めました。（27年度）
- ・子育て世代を対象に行う親子体験イベントやスポーツ教室などの開催期間を広げ、参加しやすい環境づくりに努めました。（27年度）

【注】

- 1)：「スポーツ立県ちば」：すべての県民がスポーツに親しみ、スポーツの楽しさや感動を分かち合いながら健康で活力あふれる生活を送り、互いに支え合う県民の姿を目指すものです。

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	1 生涯スポーツの推進				コードNo.	I-4-②-1		
担当課	教育庁教育振興部体育課				総合計画掲載ページ	139		
【指標による取組の判定】								
指標の数：2 [うち目標を達成した指標の数：1 (50%)] 目標を達成 ・ 目標を概ね達成 ・ 目標に届かず								
【主な取組の指標】								
指標名：(補) 世代別のスポーツ実施率（成人・高齢者） (単位：%)								
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値				20-39歳	20-39歳	20-39歳		
				36.8	38.2	33.6		
				40-59歳	40-59歳	40-59歳		
				38.3	42.7	41.2		
目標値				60歳以上	60歳以上	60歳以上		
				74.9	76.6	74.3		
				—	20-39歳	20-39歳		
					43.0	43.0		
				40-59歳	40-59歳			
				44.0	44.0			
				60歳以上	60歳以上			
				増加を指	増加を指			
				します	します			
指標名：スポーツ推進月間関連イベント「スポーツで元気いっぱい親子体験イベント」実施団体数 (単位：団体数)								
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値					5	7		
目標値					5	7		



千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	2 人々に感動を与える競技力の向上		コードNo.	I-4-②-2
担当課	教育庁教育振興部体育課		総合計画掲載ページ	139
年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額	200,000 千円 (9月補正後)	400,000 千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()
決算額	199,511 千円	399,751 千円	千円	千円
【指標による実施状況の判定】			目標を概ね達成	

【主な実施事項と成果】

- 「長崎国体」に出場する選手の強化練習・強化合宿・県外遠征等を 40 競技・指導者のべ 2,018 人・選手のべ 6,516 人で実施しました。天皇杯¹⁾の 8 年連続入賞を逃したものの、皇后杯は 6 位入賞を果たしました。
- ジュニア選手（主に中学生）のスポーツ教室・強化練習・強化合宿等を 39 競技・指導者のべ 1,902 人・選手のべ 11,163 人で実施し、その成果として「長崎国体」少年種別²⁾第 8 位の成績を収めました。
- 強化練習等に必要な競技用具等を 5 競技で整備し、整備計画達成度が 85.0%となり、目標を達成しました。その成果として、国体選手やジュニア選手の練習環境がより良くなり、「長崎国体」天皇杯 10 位・少年種別第 8 位の成績に大きく寄与しています。
- スポーツ医・科学活用事業では、22 団体のジュニア選手 253 人に運動能力測定を行い、個々に応じたトレーニング処方を行うとともに、強化練習等へ、のべ 191 人のトレーナーを派遣し、けがの予防等に努めました。

【今後の課題と取組方針】

〔課題（より効果・効率的に取組を実施するために解決すべき課題）〕

- 千葉国体後も競技力が維持され、8 年連続の国体天皇杯入賞を逃したものの、天皇杯は 10 位、皇后杯は 6 位でした。今後は、更に県民がスポーツに親しみ、健康で活力ある生活を送ることができるよう、競技力向上や地域と連携したスポーツ振興への取り組みを推進し、「スポーツ立県ちば」の実現に努めていく必要があります。
- スポーツ医・科学サポート事業の活用団体は 22 団体で、目標の 24 団体は達成できませんでした。主な要因は、競技の特性に応じた測定への対応不足や事業の活用方法の周知不足があげられます。

〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕

- 競技力向上推進本部による長期的・計画的な事業の推進に加え、国体やその他の国際大会で活躍した選手等を学校や地域のスポーツクラブに派遣し、スポーツの好循環を図っていきます。
- スポーツ医・科学サポート事業活用については、測定項目の固定化や活用方法の周知不足のため、活用団体に偏りがみられる傾向があります。そこで、現在実施していない競技団体が希望する測定項目の導入を検討するとともに、各競技の担当者と直接連絡をとるなど、きめの細かい広報を展開していきます。

【26年度の評価結果の反映】

〔組織・人員〕

東京オリンピック・パラリンピックに本県選手を 1 人でも多く輩出するため、オリンピック・パラ

リンピックアスリート強化・支援班を設置します。(28年度)

[コスト(予算)]

計 430,000 千円(28年度)

本県選手の育成・強化を一層推進するために必要な経費について措置しました。(28年度)

[事務改善]

・競技力向上を図るために、ジュニア強化事業において、競技団体をその特性から4つのグループに分け、その実情に応じた強化型別支援を実施しました。(27年度)

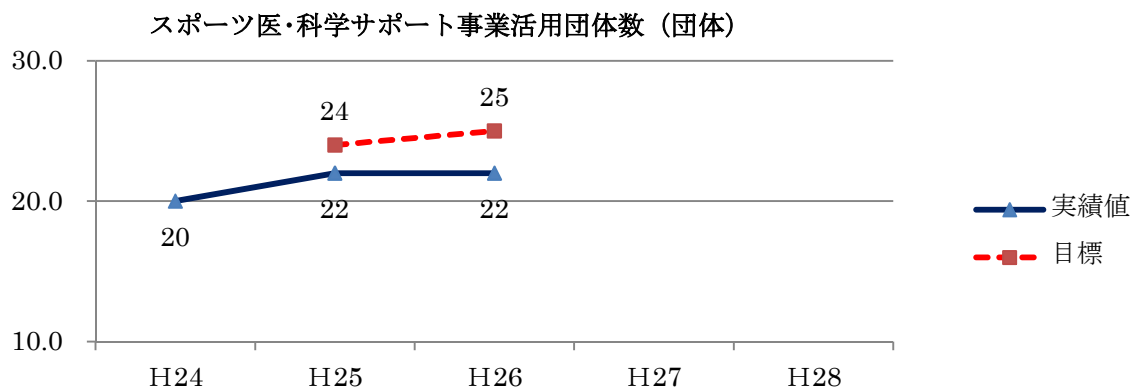
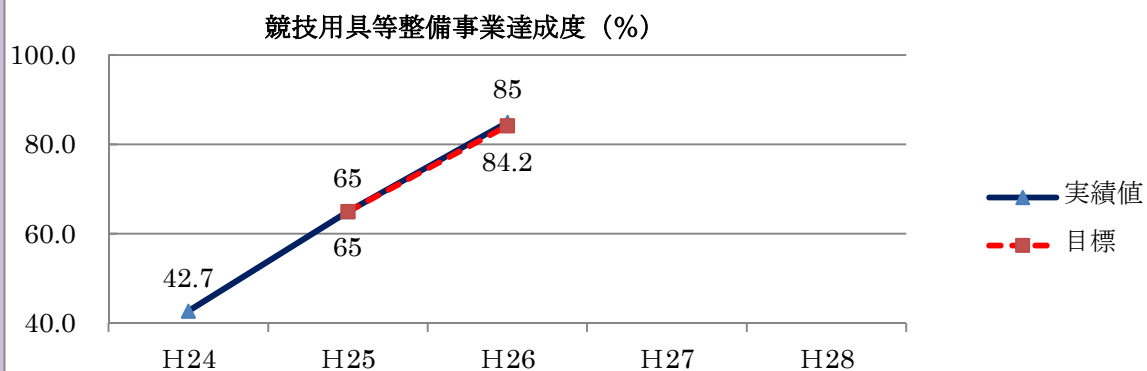
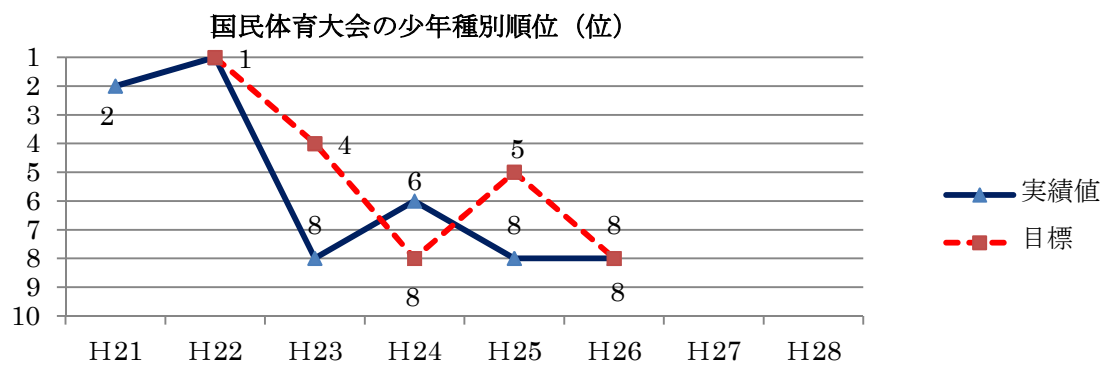
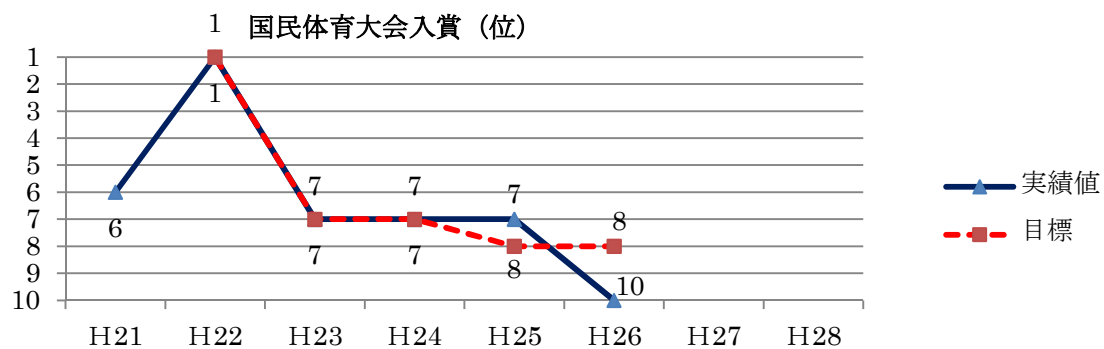
・スポーツ医・科学サポート事業については、派遣担当者会議やドーピング防止講習会など、さまざまな会議の折に広報を行うとともに、競技団体に対しては、直接、活用を呼び掛けました。測定項目の内容については、競技団体等からの要望を集約中です。(27年度)

【注】

- (1) **天皇杯、皇后杯**：全正式競技の男女総合成績第1位の都道府県に授与されるのが「天皇杯」で、女子総合成績第1位の都道府県に授与されるのが「皇后杯」です。
- (2) **少年種別**：国体の参加資格は、成年種別と少年種別に分類されており、ここでは、少年種別参加者が獲得した得点での全国順位を示しています。

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	2 人々に感動を与える競技力の向上				コードNo.	I-4-②-2		
担当課	教育庁教育振興部体育課				総合計画掲載ページ	139		
【指標による取組の判定】								
指標の数：4 [うち目標を達成した指標の数：2 (50%)]								
目標を達成 ・ 目標を概ね達成 ・ 目標に届かず								
【主な取組の指標】								
指標名：(補) 国民体育大会入賞 (単位：位)								
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値		1	7	7	7	10		
目標値		1	7	7	8	8		
指標名：(補) 国民体育大会の少年種別順位 (単位：位)								
	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年
実績値		1	8	6	8	8		
目標値		1	4	8	5	8		
指標名：競技用具等整備事業達成度 (単位：%)								
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値				42.7	65.0	85.0		
目標値					65.0	84.2		
指標名：スポーツ医・科学サポート事業活用団体数 (単位：団体)								
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値				20	22	22		
目標値					24	25		



千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	3 スポーツ環境の整備		コードNo.	I-4-②-3
担当課	教育庁教育振興部体育課		総合計画掲載ページ	140
年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額	97,700千円 (9月補正後)	111,396千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()
決算額	71,694千円	109,928千円	千円	千円
【指標による実施状況の判定】			目標を達成	

【主な実施事項と成果】

- 地域に応じたスポーツを推進するため、県民に総合型地域スポーツクラブ（以下「クラブ」）を啓発するために次の事業を実施し、人材育成が図られ、クラブ間や地域ブロック間での結束力の強化につながり、各種情報提供を行うことができました。また、クラブ支援のための訪問を行いました。
 - ・クラブの経営管理に携わる専門的な人材を育成する「クラブマネージャー養成講習会」（36名）
 - ・クラブの育成・定着・発展を支援する「千葉県広域ブロック別研修会」（3会場で計72名）
 - ・クラブ関係者やスポーツ行政関係者との連携及び交流を促進する「情報交換会(クラブサミット)」（47名）、「総合型クラブミニ交流会」（2会場で計75名）
- 生涯スポーツ指導者の養成事業を実施することにより、資質の向上を図ることができました。
 - ・社会体育公認指導員等養成講習会（23名）
 - ・スポーツリーダー養成講習会（35名）
 - ・認定スポーツ指導者研修会（101名）
 - ・地域スポーツ指導者研修会（48名）
- 県民のスポーツ参加機会向上に向けて、スポーツの場の確保という視点から、県立学校体育施設開放事業を推進し、60校を認定しました。
- 県民のスポーツに親しむ機会の選択の幅を広げるため、スポーツ施設の整備に取り組みました。
 - ・総合スポーツセンター施設整備
 - ・国際総合水泳場施設整備

【今後の課題と取組方針】

〔課題（より効果・効率的に取組を実施するために解決すべき課題）〕

- ・生涯スポーツ指導者に対する各種研修会・講習会への受講者数が少ないので、千葉県広域スポーツセンター、各クラブ、市町村行政3者の連絡・調整を十分に行って、受講者数の増加につなげる必要があります。
- ・総合型地域スポーツクラブは、32の市町村で75のクラブが活動していますが、地域のスポーツ拠点を広げるため、未設置市町村を減らす必要があります。
- ・学校開放事業では、いつでもスポーツができる場を提供できるように、さらなる開放校の増加が必要です。

〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕

- ・各種講習会の実施時期や広報の仕方（郵送、メール、ホームページの活用）を検討し、参加しやすい時期や、より分かりやすい募集要項の作成に努め参加者数の増加を目指します。また、市町村との連絡・調整を図りながら、具体的な指導者の活用法を検討し、資格を有効に活かせることを検討

していきます。

- ・各地区のクラブやスポーツ行政関係者の情報収集をすることにより、各地区の課題やニーズを把握し、研修会の充実を図っていきます。
- ・総合型地域スポーツクラブの未設置市町村に対しては、県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会と連携してクラブ設置への機運を高めていきます。
- ・県立学校体育施設開放事業では、開放校数の増加に向け、各校の運営委員会の委員長に対して、利用者が利用しやすい体制づくりを行うよう依頼し、地域スポーツの推進に努めます。

【26年度の評価結果の反映】

〔組織・人員〕

〔コスト（予算）〕

計 870,486 千円（28年度）

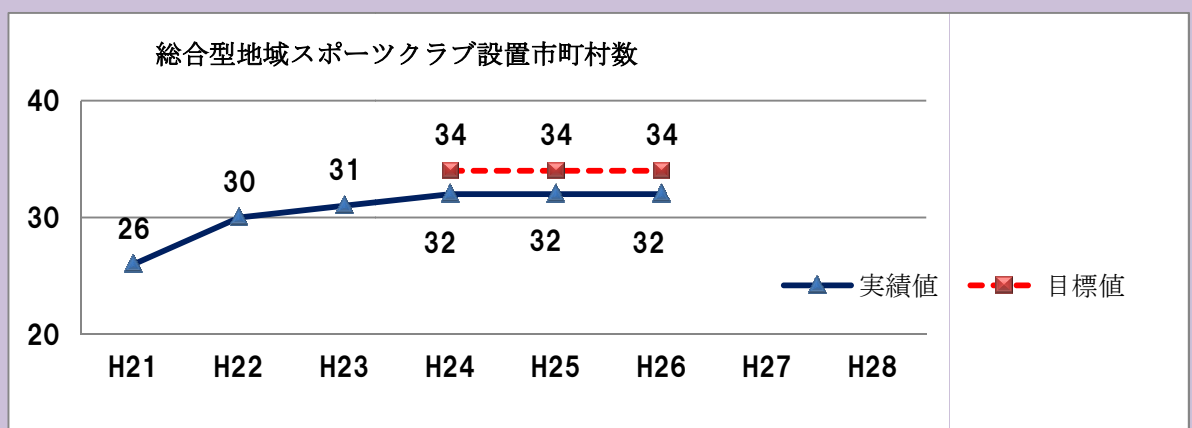
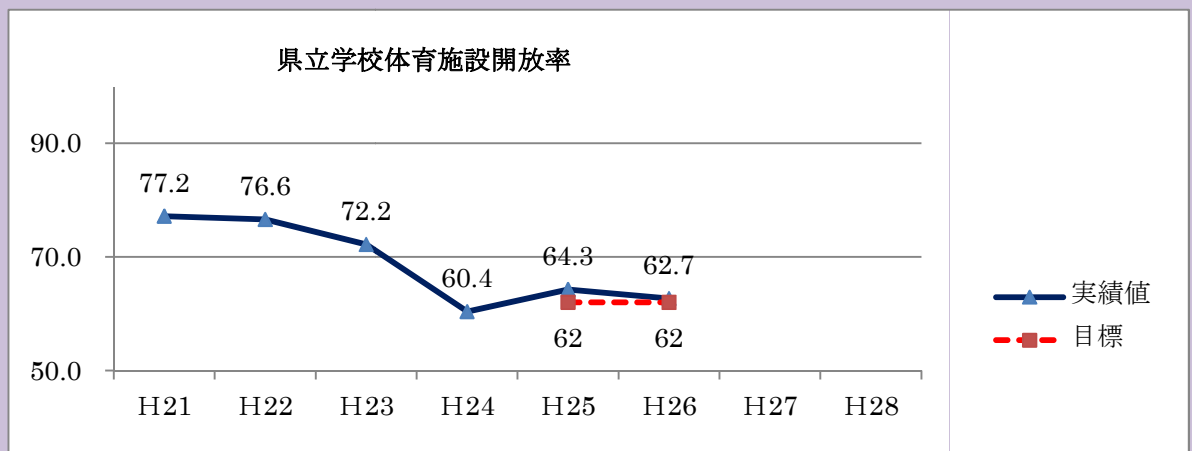
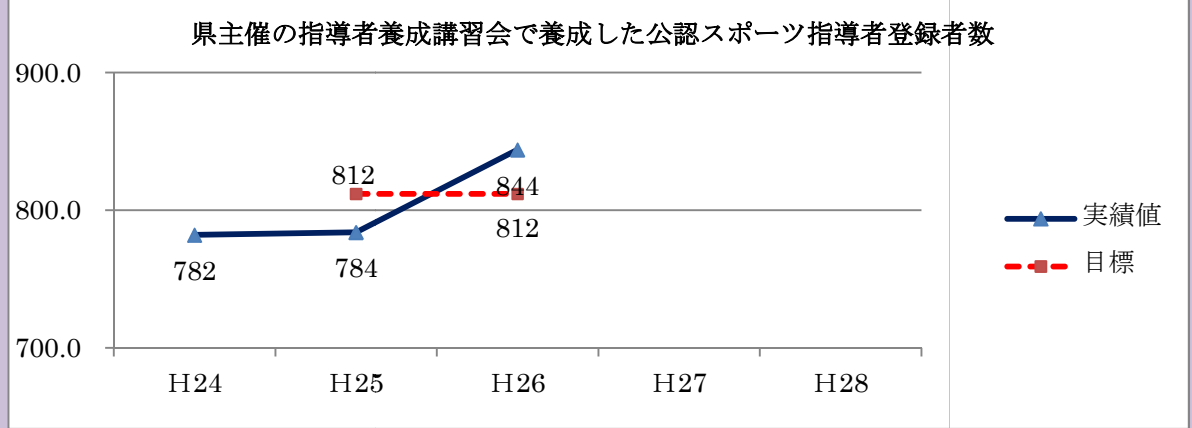
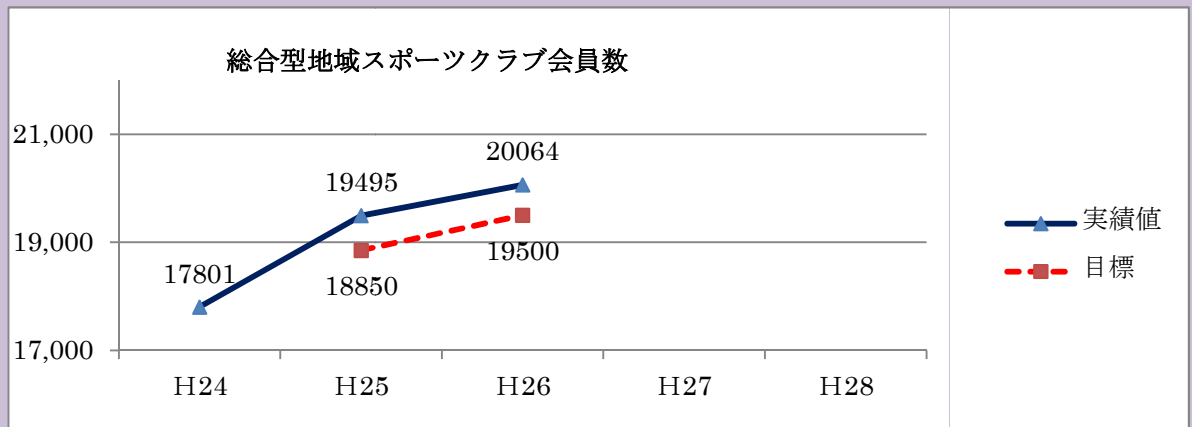
総合スポーツセンターと国際総合水泳場を、安全かつ快適に県民の方に利用していただくために必要な経費や、生涯スポーツの推進並びに、総合型地域スポーツクラブの育成・定着を一層推進するために必要な経費等について措置しました。（28年度）

〔事務改善〕

- ・指導者の有効な活用方法を検討するため、従来から実施しているアンケート調査の内容を改善し、活動しやすい日時や内容、依頼の方法等についての調査を実施しました。（27年度）
- ・運動習慣の定着を目指して、幅広い世代の県民が、目的や興味・関心にあわせて様々なスポーツに触れることができる、総合型地域スポーツクラブの未設置市町村を訪問し、設立支援ミニ集会や情報交換会を開催しました。（27年度）

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	3 スポーツ環境の整備					コードNo.	I-4-②-3		
担当課	教育庁教育振興部体育課					総合計画掲載ページ	140		
【指標による取組の判定】									
指標の数：4 [うち目標を達成した指標の数：3 (75%)]									
<input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成 ・ <input type="checkbox"/> 目標を概ね達成 ・ <input type="checkbox"/> 目標に届かず									
【主な取組の指標】									
指標名：(補) 総合型地域スポーツクラブ会員数								(単位：人)	
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
実績値				17,801	19,495	20,064			
目標値					18,850	19,500			
指標名：県主催の指導者養成講習会で養成した公認スポーツ指導者登録数								(単位：人)	
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
実績値				752	784	844			
目標値					812	812			
指標名：県立学校体育施設開放率								(単位：%)	
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
実績値	77.2	76.6	72.2	60.4	64.3	62.7			
目標値					62.0	62.0			
指標名：総合型地域スポーツクラブ設置市町村数							(単位：市町村)		
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
実績値	26	30	31	32	32	32			
目標値				34	34	34			



千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	4 スポーツを活用した地域の活力づくり			コードNo.	I-4-②-4
担当課	教育庁教育振興部体育課			総合計画掲載ページ	140
年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額	78,600千円 (9月補正後)	154,100千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()	
決算額	77,128千円	96,419千円	千円	千円	
【指標による実施状況の判定】			目標に届かず		

【主な実施事項と成果】

- 世界的に類のない男女混合による 2014 国際千葉駅伝を開催し、質の高いスポーツイベントを間近で見える機会を提供しました。沿道では、多くの県民が声援をおくり選手を励ますとともに、にぎわいグルメ広場等のサブイベントを実施するなど、県民のスポーツへの機運を高め、「みるスポーツ」の推進に寄与しました。
- 県内のトップ・プロスポーツ団体が学校を訪問する「ちば夢チャレンジかなえ隊」派遣事業を9つの小中学校で行い、体育・スポーツ活動での交流を通して、広く子供たちにスポーツの楽しさを体験させただけでなく、キャリア教育としての効果も見られました。また、「ちば夢チャレンジ☆パスポート」事業では、1万人以上の児童が、プロ野球選手のプレーをスタジアムで観戦できただけでなく、球場施設やゲーム運営の舞台裏を見学したり、スタジアム・スタッフ体験をしたりするプログラムも取り入れて実施しました。
- 「ちばアクアラインマラソン2014」は、本県のスポーツ振興に寄与するとともに、多くのメディアに取り上げられ、アクアラインと千葉県の魅力を広く発信することができました。また、前回大会の課題であった救護体制、完走率及びリタイアランナーの輸送についても、改善が図られ、開催に伴う経済波及効果は約34億円となり、地域経済の活性化にも寄与することができました。

【今後の課題と取組方針】

〔課題（より効果・効率的に取組を実施するために解決すべき課題）〕

- ・トップ・プロスポーツ連携事業では、もっと多くの子どもたちにプロスポーツの素晴らしさに触れる機会を提供する方法の検討が課題です。
- ・ちばアクアラインマラソンでは、より一層満足していただける大会となるよう、運営方法や実施計画を見直す必要があります。

〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕

- ・プロスポーツ団体とコラボした、トップ・プロスポーツ連携事業「ちば夢チャレンジかなえ隊」や「ちば夢チャレンジパスポート・プロジェクト」を改善・拡大し、スポーツの魅力に触れてもらうことや球場内の施設見学を通じて社会体験の場を提供し、「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」の推進を図ります。
- ・「ちばアクアラインマラソン2016」の開催に向けて関係機関と協議しながら運営方法や実施計画を見直し、完走率の一層の向上と国際色の豊かな大会を目指すとともに、新たに車いす種目の導入を

目指して、準備業務を進めます。

【26年度の評価結果の反映】

〔組織・人員〕

〔コスト（予算）〕

計 209,600 千円（28年度）

「スポーツ立県ちば」の実現を目指し、「する」「みる」「ささえる」スポーツを県民に一層推進する経費や、ちばアクアラインマラソン2016を開催するために必要な経費等について措置しました。（28年度）

〔事務改善〕

- ・トップ・プロスポーツ連携事業では、より多くの子どもたちにスポーツに関連した体験をしてもらうために、「ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト」において、ロッテマリーンズに加え新たに千葉ジェッツとの連携事業を行いました。
- ・平成28年10月23日（日）開催する「ちばアクアラインマラソン2016」では、車いすハーフマラソンを正式種目とするとともに、より多くの外国人ランナーに参加いただけるように外国人ランナー枠のほか、様々な方に参加していただけるよう特別枠を設けるなど、より一層満足していただける大会を目指して、準備業務を進めました。

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	4 スポーツを活用した地域の活力づくり				コードNo.	I-4-②-4			
担当課	教育庁教育振興部体育課				総合計画掲載ページ	140			
【指標による取組の判定】									
指標の数：4 [うち目標を達成した指標の数：0 (0%)]									
目標を達成 ・ 目標を概ね達成 ・ 目標に届かず									
【主な取組の指標】									
指標名：(補) 県内各地で開催されるスポーツ大会・スポーツイベントへの参画 (する・みる・ささえる) 意欲の割合 (単位：%)									
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
実績値				65.1	72.4	68.6			
目標値					増加を 指します	増加を 指します			
指標名：(補) 県内で開催されるスポーツ大会・イベント情報提供への満足度 (単位：%)									
	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	
実績値				21.4	19.2	20.4			
目標値				23.0	23.0	23.0			
指標名：(補) 県民の運動スポーツに関するアンケート調査における地元開催大会の必要性 (単位：%)									
	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	
実績値				72.0	74.9	67.6			
目標値					増加を 指します	増加を 指します			
指標名：プロスポーツ活用・連携事業実施団体数 (単位：団体)									
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
実績値					1	9			
目標値					20	10			

